

発創カンパニー

カモマン

企業人学校とつないで探究



講師のNEC社員（手前）と、今後のプロジェクトの進め方について話し合う生徒たち。東京都渋谷区渋谷教育学園渋谷中学高等学校



パソコンに向かう宮原うち社長。「企業と学校をじっくりつなげていきたい」
東京都世田谷区のカモマン本社

「現地の学校の先生と連絡を取り合いたいと思います」「いいね。ビジネスの世界では、こういうときインタビュリストをよく作るよ」
東京・渋谷の私立中高一貫校「渋谷教育学園渋谷中学高等学校」。カンボジアの社会課題を事業開発を通して解決しよう、高2の有志が毎週放課後に勉強会を開いている。講師はNECの現役社員。

生徒は同社の人脈を頼りに現地の住民らにもネットでインタビュー。手薄な公教育をカバーするオンライン授業などの事業化を目指す。資金調達はクラウドファンディングの活用も視野に入れる。生徒らの反応は「僕らだけだと机上のプロジェクトになってしまうが、生きた声が聞けるので貴重な体験です」（生徒の一人）と上々だ。

両者を橋渡ししたのは、「企業人と学校をつなげる」をコンセプトに教育プログラムを手がけるベンチャー「カモマン」（東京都世田谷区）。宮原うち社長（30）は大手不動産会社や教育関連会社に勤め、起業した。「単発の出前授業では学習効果は限定的なので、持続的な取り組みを考えました」
企業側はどんな人材を送り出しているのか。NECから週1回、同校に通う山浦莉代さん（35）は新規デジタル教育事業を興すグループに属する。「生徒たちの学びへのモチベーションがすごい。私自身刺激になっている」。同社は探究学習のプラットフォームを開発中で、高校生がICT（情報通信技術）を使って学習を進めるときの課題を知ることができるといふ。

カモマンは今回、NECから社員の研修費用・コンサル料として数百万円を得ることで収益化を図った。学校からは講師の派遣料などは受け取っていない。
宮原社長は、企業に勤めながらもっと教育に関わりたいと思っている人は少なくなく、中高校やアクティビニアの活躍の場にもなるとみる。7月には、「外部人材×学校」の無料のマッチングサイトを立ち上げる予定だ。例えば「英語を話せる人に小学校に来てほしい」「戦争体験した人に中学校に来てほしい」といった具合だ。将来はサイトに広告を掲載するなどして軌道に乗せていきたいという。「企業が多様な人材が学校に入ることで、企業にも学校にもメリットがあるウィンウィンの形を目指したい」（佐藤 隆）

カンパニーメモ

2019年創業。資本金500万円。社名は「Come on Monday!」からとった。社員は宮原さん1人だが、企業と学校双方の勤務経験があるサポートメンバー6人が事業を支える。